

日本物理学会領域2運営会議 議事録

日時: 2019年09月11日(水) 12:00-13:12

場所: 岐阜大学柳戸キャンパス K22

司会: 領域2代表 藤田、参加者約40名、書記: 白石

報告事項

藤田領域2代表より、以下の項目について報告があった。

1. 2019年10月からの役員体制・役割分担

(2019.4~2020.3)

小林進二さん(京都大学)、佐野孝好(大阪大学)さん、沼田龍介(兵庫県立大学)さんが2019年10月から新たに領域2役員となることが紹介された。

来年10月からの役員に立候補したい方は年内に領域代表へ連絡してほしい旨がアナウンスされた。

2. 2020年4月からの領域代表、副代表の推薦

次期領域代表 金子俊郎さん(東北大学)

次期領域副代表 稲垣 滋さん(九州大学)

10/28までに物理学会担当あてに推薦書提出

11/26領域委員会において承認の予定

→拍手にて承認された。

3. 学生優秀発表賞受賞者報告

2018年秋季大会から、学生優秀発表賞は日本物理学会が授与する賞となった。

31名の応募があり、そのうち4名選出(前回(2018年秋))は15名応募、4名選出)。

○Law King Fai Farlayさん(阪大レーザー)

「マルチピコ秒ペタワットレーザーの湾曲ターゲット内面照射による磁気リコネクション実験」

○ジャン ソウォンさん（筑波大プラ研）

「ミラープラズマにおける ICRF 加熱時のイオンの磁力線方向輸送」

○南 卓海さん（阪大工）

「Energetic Ion Acceleration with J-KAREN-P Laser Using nm Thickness Graphene Targets」

○菅原 丈晴さん（東北大工）

「ヘリコンスラスト内壁への局所運動量損失ベクトルの分布評価」

今大会は 31 名の応募があった。

4. 米沢富美子賞の募集について

領域 2 から、2 名を上限として受賞候補者を推薦することができる。

領域 2 の締め切り：2019 年 9 月 27 日（金）

提出先：領域代表 藤田さん

→支部か領域から応募する。

→代表より、応募の呼びかけがあった。

5. 第 75 回（2020 年）年次大会シンポジウム等の提案

企画講演

招待講演 本日まで提案なし。

若手奨励賞受賞記念講演 最大 2 件

シンポジウム提案 2 件

福田さん（量研関西研）

宇宙物理の手法を利用した光速に迫るレーザー陽子加速への挑戦（仮題）

福田さんから資料を用いて説明があった。

→聴衆の増加が見込めるので、ビーム物理との合同にしたほうがよいのでは。
→検討する。

稲垣さん（九大）

プラズマに接する動的な境界 —非平衡系における界面—

稲垣さんから資料を用いて説明があった。

→プラズマ—固相の発表がないので入れた方がよい。→プラズマ—壁相互作用あるいはレーザーアブレーションの発表を入れられるか検討する。

→代表より、引き続き、招待講演、シンポジウムの募集をしていることがアナウンスされた。

6. 領域委員会（2019年5月21日）報告

2019年秋季大会シンポ等の企画・提案について

領域2提案：

シンポジウム講演（2件）

「小型中性子源が拓く新領域」（ビーム物理、実験核物理と合同）

「レーザー光源の進化と原子分子物理学の深化」（領域1と合同）

招待講演（1件）

徳沢季彦さん「プラズマ乱流計測から見た水素同位体効果検証実験」

すべて承認・採択。

日本物理学会女性科学者賞（米沢富美子賞）の創設について了解された。

大会の会場の選定について意見交換がなされた。

7. 大会改革について

(1) 第75回(2020年)年次大会より冊子体プログラムを廃止

web版のプログラムは従来通り

冊子体とほぼ同じフォーマットのpdfを会員マイページからダウンロード可能

これにより、講演申し込みの締め切りを約2週間遅らせる予定

(2) 第76回(2021年)年次大会より大会会場の有効活用

近年大会の開催が可能な大学が限定されており開催会場探しが難航。また会場費も高騰。

会場（部屋）の稼働率を上げて使用部屋数を従来の約 3/4 にする。

- ・論文賞表彰式、総合講演と並行して通常セッションを行う
（総合講演は動画配信を予定）。
- ・午前（あるいは午後）の前半と後半で同一会場のを別の領域で使用する。
- ・初日午前や最終日午後にも多くのセッションを入れる。

以上の方針について領域としての意見があれば領域委員会(11/26)で報告

→3日開催にすればよいのでは？ →会場費は削減できるが、会場のキャパシティの問題の解決に繋がらない。

8. 講演数の偏移

領域 2 における講演数は年々減少しており、特に秋季大会の講演数の減少が顕著である。

9. 2021 年秋季大会の AAPPS-DPP 2021 との共催の可能性について

AAPPS-DPP2021 は日本で開催予定。福岡で 2021 年 9 月 26 日(日)～10 月 1 日(金)開催が有力。秋季大会とほぼ同じ時期となり、参加者が分散することが懸念される。

領域 2 の 2021 年秋季大会と AAPPS-DPP2021 とを共催してはという提案がなされている。その場合、次のような形態が想定される。

講演は基調講演(Plenary), 招待講演(Invited), 一般口頭講演(Oral), ポスター講演(Poster), サマリー講演(Summary)などから構成される。

講演の採択は合同のプログラム委員会で行われる。

セッションは物理学会と AAPPS-DPP とで区別しない。

講演は原則として全て英語使用となる。

参加費は従来の AAPPS-DPP 会議に準じる（金沢開催時は一般 5 万円、学生 2.5 万円）。

物理学会の学生優秀発表賞は認められない（会議として独自に設定は可能）。

若手優秀賞の要件となる物理学会での発表として認めるかは領域の判断。

2020年秋季大会の運営会議までには最終的な結論を出す必要がある

(議論)

→学生参加費が高いのでは。実際に参加できるのか？ 学生が発表する機会を維持するという観点から物理学会を開催した方がよいのでは。→参加費減額の交渉はすべき。

→講演にグレードを設けているのが物理学会のポリシーとはあっていない。プレナリー講演及び招待講演の件数が非常に多く、その位置付け・採択のプロセスもAAPPS-DPPと物理学会とはかなり異なるようだ。また、学生の口頭発表の機会が減少するのも懸念。

→共催せず、参加者が激減した場合の影響が心配。領域2の存在意義が問われる可能性がある。

→講演数を増やすには他の領域との協力も必要では。

→学生の英語発表の質が心配である。ただし、これからは英語発表は必須であり、モチベーションアップにつながるのでは。教育の観点から、学生の発表の場として適切ではという意見も。

→会議が多すぎるので調整は不可避である。

→共催しないときのデメリットを整理した方がよい。

→メールで意見を募集し、来年の3月の運営会議で議論する。

9. その他

1. 領域2懇親会

日時：9月11日(水) 18:30-20:30

場所：ホテルグランヴェール岐山 展望ビアホール

<https://grandvert.com/hotel/event/2019beerhall/>

*岐阜大学から会場まで(18:00 出発)、懇親会終了後岐阜駅までバスの送迎の予定あり

*参加費は、一般 6500 円程度、学生 2000-3000 円程度の予定

以上